

甲南学園専任職員行動指針

1. 建学の精神を深く理解することに努め、甲南学園専任職員であることの自覚、誇りを持って行動します。
2. 甲南学園の社会的使命を十分果たしていけるよう最大限のサービスを提供します。
3. 常に「いま、そして将来、学生・生徒のためになるか」を業務の判断基準とします。
4. 自発性を磨き、学園の経営目標のもと、積極的、意欲的かつ迅速に組織として業務を遂行します。
5. 国際的かつ長期的な視野を持ちつつ、「大局の打算」を誤らず、改革、改善に取り組みます。
6. 「正志く、強く、朗らかに」業務に取り組み、自らの生活の価値を高めるように努めます。

1. 建学の精神を深く理解することに努め、甲南学園専任職員であることの自覚、誇りを持って行動します。

◆「建学の精神を深く理解する」とは

- ①創立者平生鈇三郎の甲南高等学校第一回卒業式訓話を十分理解する。
- ②甲南学園の歴史を理解する。(学園50周年のときの伊藤忠兵衛理事長「ヨキコト ハ サカエル」の理解を深める)
- ③甲南学園寄附行為、各学則(大学、大学院、高等学校、中学校)を理解する。

◆「甲南学園専任職員であることの自覚、誇りを持つ」とは

- ①道義を守り、礼節を重んじる。
- ②社会貢献に努める。
- ③教育機関としての社会的使命がどこにあるかについて認識を深め、その実現に努める。
- ④法令を遵守する。
- ⑤甲南学園諸規程を重んじ、現実の課題に柔軟に対処する。
- ⑥教育研究に携わっていることに誇りをもち、最大限その責任を果たす。
- ⑦甲南学園の学生と生徒の正課活動、課外活動および教員の教育研究活動の成果があがるよう環境設備等を含め職員として、直接・間接の責めを果たす。
- ⑧甲南学園の卒業生の活動をモラルサポートするとともに、卒業生に母校を誇りに思ってもらえるよう努める。

2. 甲南学園の社会的使命を十分果たしていけるよう最大限のサービスを提供します。

◆「社会的使命を十分果たしていけるよう最大限のサービスを提供する」とは

- ①建学の精神のもと、よりよい教育、優れた研究活動を複層的に遂行することが社会貢献の第一義であることを認識する。
- ②これを効果的に実現するため、国・地域の公共団体をはじめ学外の諸機関・団体・個人から資金・機会・情報・人材等さまざまな支援・協力を提供いただけるようソーシャルネットワークづくりに日常的に取り組む。
- ③甲南学園に対する社会的ニーズについての的確に把握し、教育研究活動のプロセスのなかで社会的ニーズに対応できる活動・情報・機会については積極的に提供すること、これが重要な社会貢献の一つであることを認識する。
- ④学生・生徒・保護者に対し、適切な対応・指導・助言ができる。
- ⑤意欲ある入学希望者を層として形成するための活動に積極的に取り組む。

3. 常に「いま、そして将来、学生・生徒のためになるか」を業務の判断基準とします。

◆「常に「いま、そして将来、学生・生徒のためになるか」を業務の判断基準とする。」とは

- ①我々が行っているサービスは教育であることを自覚する。
- ②学生・生徒の正課活動、課外活動を理解し、支援する。
- ③学生・生徒の成長に寄与するよう努めるとともに、その活動に惜しみなく支援、協力する。

4. 自発性を磨き、学園の経営目標のもと、積極的、意欲的かつ迅速に組織として業務を遂行します。

◆「自発性を磨く」とは

- ①自ら積極的に課題を理解しそれに取り組む。
- ②自らの考えを他者に分かり易く説明するとともに他者の意見にも耳を傾け、自らコミュニケーションを深めつつ、組織的協力関係を築く。

◆「学園の経営目標のもと積極的、意欲的かつ迅速に組織として業務を遂行する」とは

- ①学園の経営目標を理解し、意欲的に業務に取り組む。
- ②学園の経営目標を理解するなかで自らの役割、責任を自覚し、それを全うする。
- ③経験を重ね、それを優れた判断力に昇華させることに努める。
- ④常に問題意識をもって組織として業務に取り組む。
- ⑤目標を定めて、効率的に職務を遂行する(PDCA)。

5. 国際的かつ長期的な視野を持ちつつ、「大局の打算」を誤らず、改革、改善に取り組みます。

◆「国際的かつ長期的な視野を持ちつつ、「大局の打算」を誤らず、改革、改善に取り組む」とは

- ①地域から世界まで幅広い視点にたち、常によりよい状態をめざして考え、行動する。
- ②学校法人の経営体としての企画・立案のため、教育界をはじめ大は世界の動向、小は地域の動向に至るまでの情報収集・調査・分析に取り組む。
- ③甲南学園の特長と課題を理解する。
- ④ビジョン・計画性(短期・中期・長期)をもって行動する。
- ⑤教育全体をとりまく状況を理解し、「大局の打算」を誤らぬこと。
- ⑥状況変化に柔軟に対応し、実行する。

6. 「正志く、強く、朗らかに」業務に取り組み、自らの生活の価値を高めるように努めます。

◆「正志く、強く、朗らかに」業務に取り組み、自らの生活の価値を高める」とは

- ①自らのキャリアプランをイメージできる。
- ②「共働互助」の精神を大切にし、「正志く、強く、朗らか」な職場風土醸成に努める。
- ③自らの生活の価値を高めるなかで、仕事と生活を統合調和させ、心身ともに健全であることに努める。

以上